

キリストの生ける手紙（第二コリント 3:1-6）

2020年5月24日（日）

ジョーイ・ゾリーナ牧師

今日もシリーズを続けます。思い出してください、パウロがコリント教会の問題についてテトスから聞いた後、コリント人へこの2番目の手紙を書きました。テトスは手紙をコリントに持ち帰り、パウロは彼に、そこでの状況を管理するように命じます。ですが、1章、2章で見れるように、パウロの高潔と権威はコリントの地で疑われています。そして3章1-6節で、パウロはコリント人自身が彼のミニストリーの実であることを弁明します。ここから3つのことを一緒に洞察していきます。1、全ての人に読まれ、知られている推薦状、2、イエスが私たちの心に記した究極の推奨、3、イエスが私たちに委ねたいのちを与えるミニストリー

1. 全ての人に読まれ、知られている推薦状

1節「わたしたちは、またもや自分を推薦し始めているのでしょうか。それとも、ある人々のように、あなたがたへの推薦状、あるいはあなたがたからの推薦状が、わたしたちに必要なのでしょうか。」

2章17節でパウロは彼の真摯さ（心からのもの）は「神の言葉を売り物に」するような商人ではないと言っています。その人たちはどうやら神の言葉を自身の勧めの手紙で自慢したりしていたようです。ですから、彼らがパウロの勧めの手紙を非難する場合のために、1節でパウロは「わたしたちは、またもや自分を推薦し始めているのでしょうか。」と言っています。だから、後にある5章12節で「わたしたちは、あなたがたにもう一度自己推薦をしようというわけではありません。ただ、内面ではなく、外面を誇っている人々に応じられるように、わたしたちのことを誇る機会をあなたがたに提供しているのです。」と言っているのです。つまり、偽使徒たちは自身の資格を利用して外面を誇っていました。でも覚えてください、1世紀ごろの教会では手紙を用いて誰かを推奨したり紹介することは一般的でした。例えば、使徒の18：27では、アポロ（パウロの協力者）がアカイアにあるコリントに行きたかった時、「兄弟たちはアポロを励まし、かの地の弟子たちに彼を歓迎してくれるようにと手紙を書いた。」とあります。

実際、パウロ自身が他の人への推薦をしばしば書いています。たとえば、彼はテモテを他の人に推薦しました（1コリント16：10、11）。テトスも推奨しています。（後の2コリ8:22）。彼はまた、フィベを推奨しました（ローマ16：1、2）。そして、ピレモンへの手紙は、推薦の手紙です。しかし、偽の使徒たちが用いた推薦状は、他人に印象を与えるために誇張されていてとも言えます。覚えておいてください、神の言葉の商人はたくさんいたので、「一部」の人は他人よりも権力を得るために彼らの推薦状を乱用していました。それで、パウロは、「...ある人々のように、あなたがたへの推薦状、あるいはあなたがたからの推薦状が、わたしたちに必要なのでしょうか。」と言います。（v. 1b）。昨今でも、学界で教えるには資格が必要ですよね？企業の世界では、仕事に応募するためには、レファレンスレターと履歴書が必要です。しかし、なぜ自身の履歴書を誇張する人がいるのでしょうか。誇張は真実を引き伸ばしています！自分をより美しく見せることは一種の欺きです！誇張の下では、履歴書が印象的でないと仕事に就けないのではないかと心配する思いがあります。多くの場合、評判を築き上げ、他の人からよく思われるための、承認欲求の偶像礼拝があります。同じ誘惑が教会のミニストリーにもあります。しかし、パウロは、神様は私たちが資格、社会的地位、道徳、民族性、パフォーマンス、また履歴書によって認めているわけではないことを知っていましたね？ピリピ人への手紙の中で、3：5-7、「わたしは生まれて八日目に割礼を受け、イスラエルの民に属し、ベニヤミン族の出身で、ヘブライ人の中のヘブライ人です。律法に関してはファリサイ派の一員、6熱心さの点では教会の迫害者、律法の義については非のうちどころのない者でした。7しかし、わたしにとって有利であったこれらのことを、キリストのゆえに損失と見なすようになったのです。」とあります。

言い換えれば、パウロの心は、彼の価値を証明したり、働きを検証するための推薦状の必要から解放されています。10章18節でも言っています。「自己推薦する者ではなく、主から推薦される人こそ、適格者として受け入れられるのです。」見てください、パウロは主の表彰のためだけに生きていました。彼の奉仕の成果はコリント人のいたるところに書かれていたので、ミニストリーを検証するために推薦状を必要としませんでした。彼は2節で述べています。「わたしたちの推薦状は、あなたがた自身です。それは、わたしたちの心に書かれており、すべての人々から知られ、読まれています。」

コリント人は彼のミニストリーの成果（実）であり、彼の推薦状はアカイア中で読まれました。

言い換えれば、福音の結果としての変えられたあなたの人生は、すべての人が知って読んでいる公開状のようなものです。見てください、これが東京の私たちにとって何を意味するかです：私たちの家、職場、コミュニティのほとんどの人はまだ聖書を読んでさえいません。しかし、彼らは私たちを読みます。今週、イエスのもとに昇天された有名なキリスト教の弁証者であるラビ・ザカリアスが言いました。

「私たちは、目で聞き、感覚で考える世代に生きている。」つまり、毎日会う人々に読まれているということです。私たちは常に、自分の目の前にいる人たちにどう生きるかということについてメッセージを送っています。言い換えれば、私たちの人生は1日1章、物語を書き、周りの人たちはそれを読んでいます。あなたの人生はどんな物語を語っていますか？どうやって人々が見て、私たちの人生が福音を推奨するように生きていけるでしょう。私たちの心に律法を記してくださったイエスに信頼することです。

2. イエスが私たちの心に記した究極の推奨

「3節、あなたがたは、キリストがわたしたちを用いてお書きになった手紙として公にされています。墨ではなく生ける神の霊によって、石の板ではなく人の心の板に、書きつけられた手紙です。」

さあ、2節でパウロはなぜ「あなたがたが私たちの推薦の手紙です」と言ったのでしょうか。そして、3節で「あなたはキリストからの手紙です」と言ったのでしょうか。パウロは矛盾しているのでしょうか。

2節ではパウロはコリント人は彼の心に記された手紙だと言っています。ですが、2つめのパート3節ではキリストがお書きになった手紙と言っています。パウロは単純に「あなたがたは推薦の手紙です。なぜならキリストからの手紙と宣言されているから」と述べているのです。キリストが私たちの心に律法を書き記した著者だからだということです。

どういう意味かというと、私たちは、資格、業績、評判、地位、履歴書、または律法の行いを通して、神の前で認められることはありません。むしろ、イエスが私たちのためにしてくださったことによって、私たちは神から認められます。イエスは私たちのために完璧に称賛に値する人生を送ったので、私たちは神から推奨されます。イエスが私たちの心に究極の推奨を書いた著者です。

ですから、パウロは「イエスが唯一、あなたの心に恵み深い働きをしてくださり、イエスの配達人として私たちを、他の人を用いてくださったのです」と言っていま

す。言い換えると、「イエスがあなたの救いの著者です。私たちはそれを届けただけです。」ということです。もう一度言いますが、「届けた」という言葉に注目してください。これは役員が任務に服したという意味と同じルーツを持ちます。ですからパウロは「あなたはキリストからの手紙です」と言っています。私たちは著者のためのペンのようです。キリストは私たちの心に「書き記され」ました。墨ではなく、生ける神の霊によってです。これが分かりますか？

覚えていてください。偽物の使徒たちは、「紙に墨で書かれた」推薦状を自慢していました。しかし墨はいつか消えます。それは消され、削り取られ、見えなくなってしまう。また、コリントの偽の使徒たちは律法主義を奨励していました。パウロが第2コリントを書いた頃は、コリントで、律法主義がコロナウィルスのように広がり始めた時でした。だから11章22節で、パウロは彼らの見解をこう言って正さなければいけなかったのです。「彼らはヘブライ人なのか。わたしもそうです。イスラエル人なのか。わたしもそうです。アブラハムの子孫なのか。わたしもそうです。」いいですか、偽の使徒たちは、救われるために「石の板」に書かれている律法を信賴していたのです。（十戒）

ここで、パウロがどのように「石の板」を「心の板」と正しているか注意深く見てください。パウロは旧約聖書のエレミヤ書で神様が預言者エレミヤを通して語った所から指摘しています。

「しかし、来るべき日に、わたしがイスラエルの家と結ぶ契約はこれである、と主は言われる。すなわち、わたしの律法を彼らの胸の中に授け、彼らの心にそれを記す。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。」エレミヤ31:33

エレミヤは、紀元前600年、ヨシヤ王の支配の時代に預言をしました。そして律法を守るために国が悔い改め、法を守ると公に誓った後で、イスラエルはまた破ってしまいました！しかし、神様が新しい契約を約束したのは、そのイスラエルの墮落の最中のことでした。そしてこの新しい契約は古いもののようには条件付きのものではありませんでした。それは無条件で、完全に神の恵みに頼るものでした。もう一度言います。あなたがクリスチャンではないなら、キリスト教は、ただ外面的行動、態度を良くし、正していくプログラムではありません。キリスト教は、心が変わられていくことです。これはなぜでしょう？古い契約の問題は、外面的なことに重点がありました。神様の契約が石の板に書かれてから、彼らはそれを守っていきただけの内側の力がありませんでした。十戒を覚えて、それに刺激を受け、それを心に留め、従っていくようにはできません。しかし、心に刻み込むとなると、人間の能力を超えています。だから、何かもっと大胆で、心を手術するような、心の移植をするようなものが必要だったのです。

そして、だから神様はこう言って新しい心を約束してくれました。「わたしは彼らの内にわたしの契約を置く。彼らの心に記す。」（パウロの言い方では心の板に）そして、神様はまた、新しい心と心の関係についてこう言いました。「わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの人々となる。」いいですか、私は、今このメッセージを聞いている人々が過去に「心の移植」をしたことがあるかどうかは分かりません。しかし、一度心の移植をした人なら誰でも、もう古い心に戻りたいと思う人はいないでしょう。なぜでしょうか？神様は、赦された新しい心、愛情に溢れた新しい心、あなたの願いを並べ替え、神様の律法に心を傾かせ、キリストを愛し、キリストに従いたいと思う新しい心、他の人たちを愛する新しい心を与える約束をされたからです。

だから、パウロがコリントの人々に福音を伝えに行った時、新しい契約の完全な利点をもたらしました。古い契約、十戒は、「石の板」に書かれたものでした。それは、出エジプト記24章で神様がモーセにシナイ山で与えたものです。しかし、古い契約、十戒は、新しい恵みの契約も指していました。覚えておいてください。パウロはここで、十戒が良くなかったとか、素晴らしいものではなかった、と言っているのではありません。パウロが言いたいのは、新しい契約はそれより更に優れているということです。なぜなら、それは「生きる神の霊によって」心に記されたものだからです。ルカ22:19-20では、私たちの罪のために十字架で血を流し、新しい契約をもたらしてくれたイエスを見ることが出来ます。だから、イエスが、手紙の著者であり、ペンはパウロとそのチームであり、墨は、神の律法を心に記してくれる聖霊の働きなのです。そして、消えていく墨とは違って、神の霊が書くものは永久に残ります。なぜなら、それは私たちの心に永遠に記されているからです。神様は私たちに要求された律法を満たすために、イエスを遣わしてくれました。神様は、私たちの心に律法を刻み込んでくれます。そして、私たちが新しい契約の「資格者」として十分な者としてくださったのです。

では最後のポイントを見ていきましょう。

3. イエスが私たちに委ねたいのちを与えるミニストリー

「4 わたしたちは、キリストによってこのような確信を神の前で抱いています。5 もちろん、独りで何かできるなどと思う資格が、自分にあるということではありません。わたしたちの資格は神から与えられたものです。6 神はわたしたちに、新しい契約に仕える資格、文字ではなく霊に仕える資格を与えてくださいました。文字は殺しますが、霊は生かします。」

パウロは「キリストによってこのような確信を神の前で抱いています」と言いました。あなたは神の前での、確信、自信が足りませんか？人生とクリスチャンの宣教活動に自信が足りませんか？ここに、そんなあなたのために、ただ動機付けをするような話よりも素晴らしいお知らせがあります。パウロはこう言いました。「私たちの自信は私たちの中にあるものではない。私たちは自分を褒めはしないが、キリストを通して恵みによって赦され、永遠に愛され、承認され、義とされ、聖化されてきた人々として、神の前に自信を持っている。」

いいですか、パウロは自分のミニストリーに自信を持っていました。なぜなら、コリントの人々は、「生きる神の霊」によって書かれた「キリストからの手紙」だったからです。パウロは自分に自信を持っていたのではなく、神様から来た自信を持っていました。そして、パウロは神様にあって自信を持ってはいましたが、自分は自信があると主張したことはありませんでした。パウロは全てにおいて、神様の恵みに頼っていたのです。5節でパウロはこう言います。「独りで何かできるなどと思う資格が、自分にあるということではありません。」パウロは謙遜したりシャイなふりをしていたわけではありません。パウロはアジアや他のところで、宣教活動の中で苦しんだ時に、日々、自分の不十分さを本当に感じていました。パウロが自分の不十分さを感じたことは、モーセが感じた時と似ています。モーセは神様に、話すことが得意ではないと自分の不十分さを感じ、こう言いました。「ああ、主よ。わたしはもともと弁が立つ方ではありません。あなたが僕にお言葉をかけてくださった今でもやはりそうです。全くわたしは口が重く、舌の重い者なのです。」

(出エジプト記4:10) あなたもこのように不十分に感じたことはありますか？私たちが自分自身を正直に見つめる時、私たちは自分の中に自信もないし、その自信を与える力もありません。いいですか、誰も、本当に十分な人も、全てのことを全部自分でできるのに十分な人も、十分に善良で有能な人もいません。キリスト以外では誰も完全に全ての賜物と能力を持っている人はいないのです。

だから、パウロは言います。「私たちは**キリストによって**このような確信を神の前で抱いている。そして聖霊の力による確信の中で生きている。」少し前の2章16節でパウロはこう尋ねました。「このような務めにだれがふさわしいでしょうか。」そしてこの問いに対してここ、6節で答えています。「神はわたしたちに、新しい契約に仕える資格を与えてくださいました。」使徒として、パウロは一度も自分を資格者、適格者と感じたことはありませんでした。しかし、パウロは神様の全てに十分な恵みを見ました。パウロは、人間の知恵に頼るような偽の使徒たちのように自分で自分を作り上げている人ではありませんでした。だからパウロは、「私たちの資格は、全ての恵みの源であり、全ての力の源であり、全ての権力の源であり、全ての賜物の源であり、全ての適格性の源であり、全ての知恵、愛、慈しみの源であ

る神様から来るものだ。」と。そして、そして神様は、神様ご自身の十分さから、私たちに新しい契約の資格者になるのに**十分な者にしてくださいました。**

これは、私のような教会開拓者にとって本当に素晴らしい知らせです。パウロは、「私たちの資格は神からくる」と言います。人間からではありません。それは人間の外部からの推薦状や、人間の能力、知恵、賢さ、戦略からではありません。キリストは私たちの救いに十分なのです。そして、神様は私たちを新しい契約にふさわしい資格者としてくださったのです。この、「資格者」という言葉の意味がわかりますか？それは、「仕える者、奉仕者」という意味です。

いいですか、パウロがここで言っているのは、「キリストがあなたを要求しました。キリストがあなたを新しい契約に相応しい『奉仕者』としてくださいました。」ということです。これは、自分で建てあげた自信や偽の謙遜とは違いますよね？なぜなら、パウロは全てにおいて、自分自身から目をそらし、神様の恵みの十分さを見ていたからです。パウロは自分の不十分さと弱さを神の十分な力と恵みへつながる水路のように見ていました。Q.質問です。あなたは毎日、何に頼っていますか？いいですか、私たちの人生の実は私たちが何に頼っているかによって表されるのです。そして、私たちの周りの人々はそれを見ています！もし私たちが真実に神様の十分さに頼って生きているなら、周りの人々も私たちの人生にそれを見て、読み取るのです。私たちの人生は生きているキリストの手紙です。だから、ここで、パウロの不十分さは、パウロを、彼を恵みの奉仕者として資格を与えてくださった、神様の十分さに頼ることに導いているのです。6節で彼はこう言います。

「神はわたしたちに、新しい契約に仕える資格、文字ではなく霊に仕える資格を与えてくださいました。文字は殺しますが、霊は生かします。」文字は、律法を破った者に裁きをもたらしますが、霊は命を与えます。霊が命を与えるのはイエスが私たちのために満たしてくれた新しい契約が、私たちや周りの人々に命を与えるものだからです。イエスはあなたへの責めを取り除かれました。神様はあなたを赦し、あなたの罪をもはや覚えておられません。神様はあなたに新しい心を与えたのです。そして、聖霊があなたが神様のために生きることができるようになります。

だから、もし私たちが聖霊に頼って生きるなら、それによって成っていく実を周りの人々が見るのです。そしてイエスに栄光が帰され、イエスが讃えられるのです！神様は私たち一人一人を新しい契約の奉仕者として相応しい、十分な者としてくださいました。神様は私たちを、家庭で、職場で、コミュニティーの中で福音の力によって人生が変えられる共同体になるように召されました。

最後に、マクチェイン・ロバート・マーレイ牧師（1813-1843 スコットランドの教会の牧師）の言葉で終わりたいと思います。「自分を見つめる度に、キリストを

10回見なさい。神の近くに生きなさい。そうすれば、永遠のリアリティーに比べ、他のあらゆる事がらが、あなたにとって些細なこととなっていきます。」

あなたの不十分さや弱さを見る度に、キリストの十分さと力を10回見ましょう。神様を見つめることによって、あなたは生きていくための、恵みと力を得ていきます。霊は、あなたの内に命を生み出します。そして、あなたが毎日、神様に従いついて行く時に、聖霊があなたを通して、命を生み出していくのです。